■新性能化完了による新体制

◎　新性能化完了を機に横浜線の編成は全てTc・M・M`・T・M・M`・Tc`に統一された。
低運Mcは姿を消し、将来のATC使用を考慮した高運Tcが本格的に配属された。
◎新性能化に向けた移動
　昭和54年度は横浜線新性能化の他に仙石線の新性能化と片町線の輸送力増強等が絡み合って転配属は極めて複雑～S54年3月～54年11（横浜線関連）
　転入・・・(南シナ)より49両7×7編成～(南ヒナ)5本・(南カマ)2本
　　詳細は当編成表で参照出来ます。
　　(南カマ)→(南ヒナ)の様に身内の転属も発生
　　Ｍ２・２、Ｍ５・５、Ｍ６・６、Ｍ４８・４８、Ｍ１１３・１９２、
　　Tc ９９、、Tc １２５、Tc ３４５、Tc５５８、Tc ７０４、Tc ７１２、T １３８、Ｔ１８０
　　Tc99とTc 125は方向転属
　　赤字は仙石線絡みの移動で既に(南シナ)から(南カマ)へ移動
　転出・・・仙石線新性能化　　(仙リハ)へ17両
　　Mc ２１・１００、Mc ２２・１０１、Mc ３５・１２５、＊Mc ６２・１６５、
　　Mc １１４・２５０、Tc ８２、Tc ５４７、Tc ５８６、Tc ５９９、T ９、
　　T １０、T ７２、
　　＊ Mc ６２・１６５はS４７年横浜線初の１０３系(４両編成)
　　Tc ４１（大モリ）へ、Tc ４８、Tc ７１（千ツヌ）へ
　　Tc ７０（南ヒナ）内で方転
◎　配属状況
　（南ヒナ）は103系初期製造の車両が多数配属され冷房車も無い（高運Tcは冷房車）、に対し（南カマ）は新造車の配置もあり冷房車も格段に多い。同じ横浜線でも両区の間に格差が生じている。

★ S54年11月末日編成表

A 東神奈川電　(67両)

← 八王子	７号車 クハ 103	6号車 ◇ モハ 103	５号車 モハ 102	４号車 サハ 103	３号車 ◇ モハ 103	２号車 モハ 102	１号車 クハ 103
1F	61	3	3	138	113	192	70
2F	47	47	47	47	2	2	99
3F	69	69	69	69	48	48	125
4F	349	58	58	180	5	5	704
5F	337	43	43	43	44	44	338
6F	353	19	19	44	20	20	712
7F	343	21	21	21	22	22	344
8F	355	37	37	37	38	38	356
9F	341	13	13	13	14	14	342
予備車	345	6	6				558

?印には予備車の何れかが組み込まれていた。

B 蒲田電車区　　57両

← 八王子	７号車 クハ 103	6号車 ◇ モハ 103	５号車 モハ 102	４号車 サハ 103	３号車 ◇ モハ 103	２号車 モハ 102	１号車 クハ 103
51F	767	697	853	48	698	854	780
52F	777	121	214	207	147	274	610
53F	731	664	820	194	139	158	602
54F	357	134	247	14	135	248	358
55F	763	695	851	474	696	852	776
56F	761	133	246	198	141	264	605
57F	351	130	240	38	10	10	574
予備車	403	128	235	82	120	211	573
							404